

市民協働指針策定のための職員意識調査

集計報告書

(職員)

平成 27 年 9 月

匝 瑳 市

目 次

I. 調査の実施概要	1
II. 調査結果	2
II-1. 回答者について	2
II-2. 市民や地域活動団体等との協働について	4
II-3. 市の協働に対する考え方について	19
III. アンケート調査票	26

I. 調査の実施概要

1. 調査の概要

- 調査期間：平成 27 年 5 月 13 日 ～ 平成 27 年 6 月 2 日
- 調査方法：郵送配付・回収
- 配布・回収：

配布数	回収数	回収率
263 票	263 票	100.0%

2. 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現していません。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が 100%を超えることがあります。
- 設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
- 母数が 100 未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中及び図表中では省略した表現を用いる場合があります。

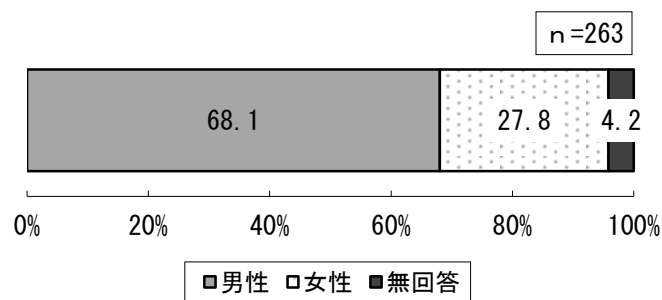
II 調査結果

II-1. 回答者について

問1 あなたの性別・年齢・所属部署をご回答ください。（それぞれ1つに○）

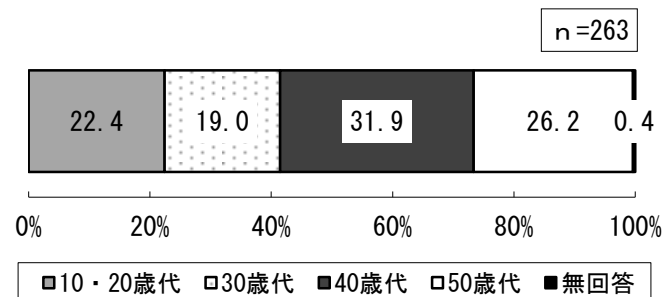
（1）性別

○ 性別は「男性」68.1%、「女性」27.8%。



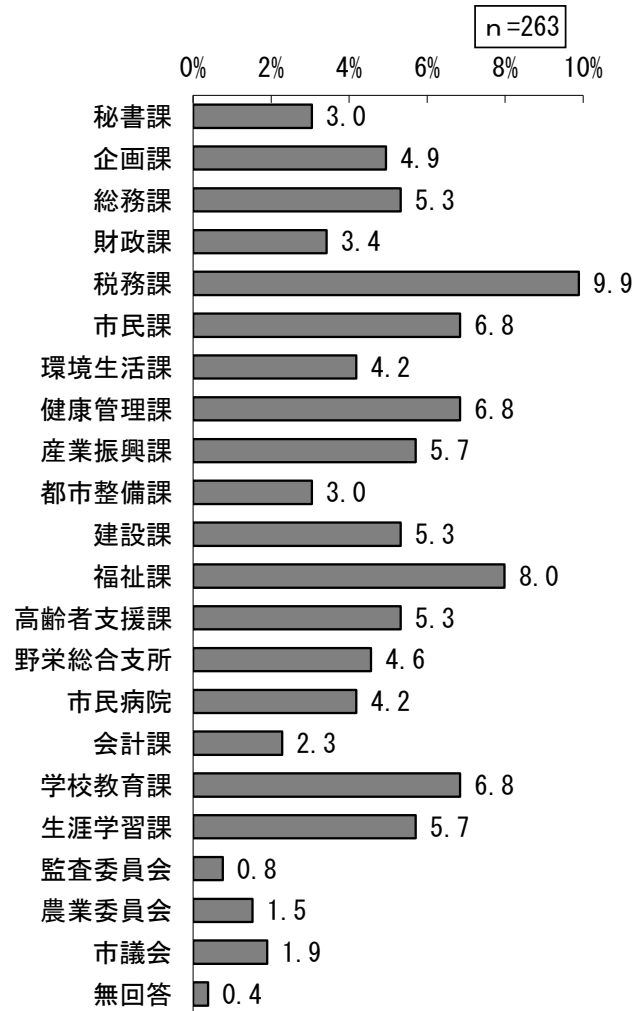
（2）年齢

○ 年齢は「40歳代」31.9%が最も多く、次いで「50歳代」26.2%、「10・20歳代」22.4%と続く。



(3) 所属部署

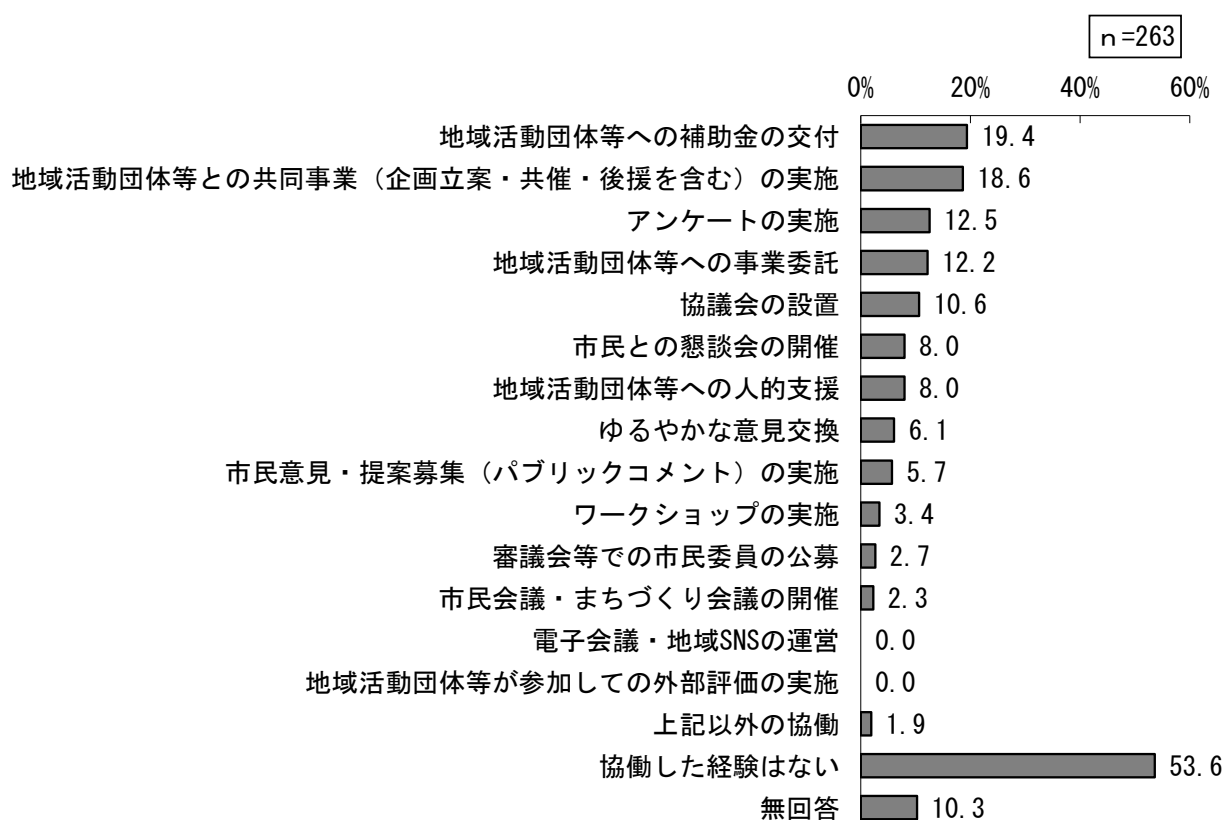
○ 所属部署は「税務課」9.9%が最も多く、次いで「福祉課」8.0%と続く。



II-2. 市民や地域活動団体等との協働について

問2 あなたは、これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等との協働による事業実施の経験はありますか。（あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。）

- 実施経験のある事業は、「地域活動団体等への補助金の交付」19.4%が最も多く、次いで「地域活動団体等との共同事業」18.6%、「アンケートの実施」12.5%と続く。
- 一方、「協働した経験はない」は53.6%と半数にのぼる。



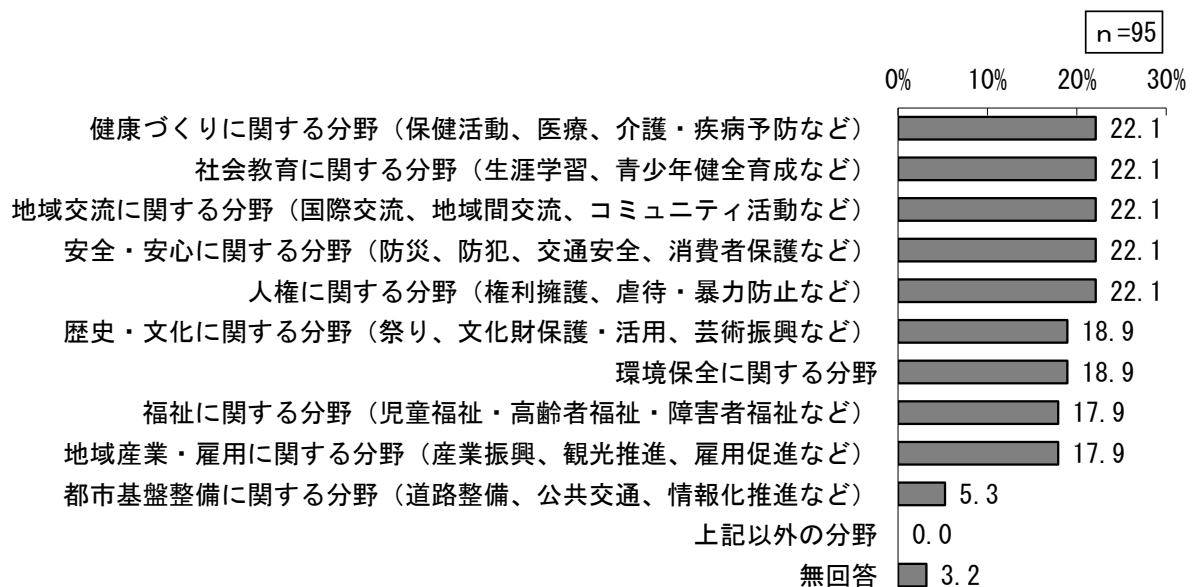
○ 連携相手の割合は以下の通り。

【連携相手】 ※無回答を除いた回答者を100%とした割合 上段：人数 下段：割合	合計	自治会	企業	市民活動団体	各種地域団体	学校	個人	その他	無回答
1 市民との懇談会の開催	19 100.0	9 47.4	2 10.5	6 31.6	11 57.9	3 15.8	8 42.1	0 0.0	2
2 アンケートの実施	30 100.0	3 10.0	2 6.7	2 6.7	6 20.0	5 16.7	22 73.3	2 6.7	3
3 市民意見・提案募集（パブリックコメント）の実施	15 100.0	2 13.3	1 6.7	2 13.3	2 13.3	1 6.7	13 86.7	2 13.3	0
4 ゆるやかな意見交換	14 100.0	5 35.7	3 21.4	7 50.0	4 28.6	2 14.3	6 42.9	0 0.0	2
5 ワークショップの実施	8 100.0	2 25.0	0 0.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	5 62.5	0 0.0	1
6 協議会の設置	26 100.0	7 26.9	3 11.5	12 46.2	17 65.4	8 30.8	8 30.8	1 3.8	2
7 審議会等での市民委員の公募	6 100.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	4 66.7	2 33.3	5 83.3	0 0.0	1
8 市民会議・まちづくり会議の開催	5 100.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	4 80.0	2 40.0	4 80.0	2 40.0	1
9 電子会議・地域 SNS の運営	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
10 地域活動団体等への補助金の交付	47 100.0	12 25.5	2 4.3	19 40.4	31 66.0	4 8.5	6 12.8	1 2.1	4
11 地域活動団体等への事業委託	28 100.0	4 14.3	4 14.3	13 46.4	18 64.3	0 0.0	2 7.1	0 0.0	4
12 地域活動団体等との共同事業（企画立案・共催・後援を含む）の実施	43 100.0	6 14.0	2 4.7	13 30.2	32 74.4	6 14.0	5 11.6	1 2.3	6
13 地域活動団体等への人的支援	18 100.0	1 5.6	0 0.0	8 44.4	10 55.6	2 11.1	0 0.0	2 11.1	3
14 地域活動団体等が参加しての外部評価の実施	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
15 上記以外の協働	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1

問3 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等とどのような分野で協働しましたか。(あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。)

- 市民や地域活動団体等と協働した分野は、「健康づくりに関する分野」「社会教育に関する分野」「地域交流に関する分野」「安全・安心に関する分野」「人権に関する分野」22.1%が多い。

※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方に限定



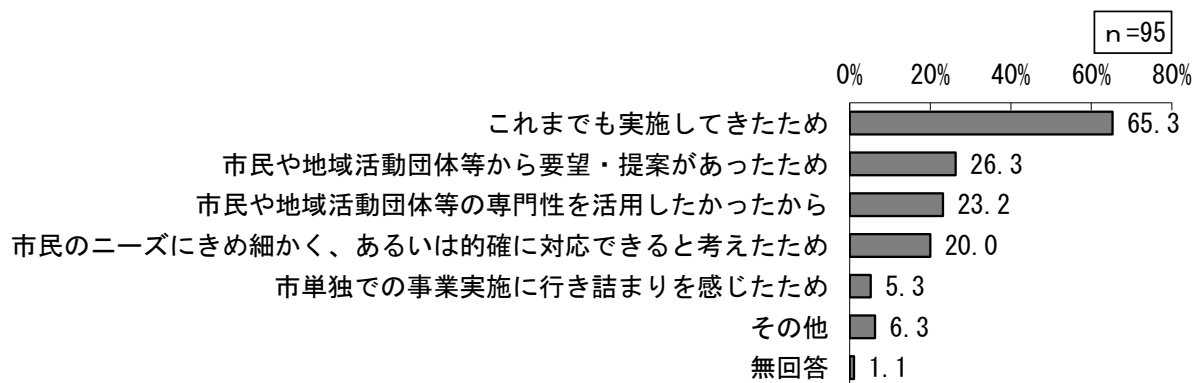
○ 連携相手の割合は以下の通り。

【連携相手】 ※無回答を除いた回答者を100%とした割合 上段：人数 下段：割合	合計	自治会	企業	市民活動団体	各種地域団体	学校	個人	その他	無回答
1 福祉に関する分野（児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉など）	15 100.0	3 20.0	2 13.3	6 40.0	11 73.3	4 26.7	5 33.3	0 0.0	2
2 健康づくりに関する分野（保健活動、医療、介護・疾病予防など）	16 100.0	0 0.0	0 0.0	6 37.5	11 68.8	3 18.8	3 18.8	1 6.3	5
3 社会教育に関する分野（生涯学習、青少年健全育成など）	17 100.0	0 0.0	0 0.0	9 52.9	12 70.6	6 35.3	3 17.6	3 17.6	4
4 歴史・文化に関する分野（祭り、文化財保護・活用、芸術振興など）	12 100.0	3 25.0	1 8.3	8 66.7	8 66.7	2 16.7	2 16.7	0 0.0	6
5 環境保全に関する分野	14 100.0	4 28.6	2 14.3	5 35.7	7 50.0	2 14.3	4 28.6	0 0.0	4
6 都市基盤整備に関する分野（道路整備、公共交通、情報化推進など）	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0
7 地域交流に関する分野（国際交流、地域間交流、コミュニティ活動など）	8 100.0	2 25.0	0 0.0	4 50.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	13
8 安全・安心に関する分野（防災、防犯、交通安全、消費者保護など）	8 100.0	5 62.5	0 0.0	2 25.0	5 62.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	13
9 人権に関する分野（権利擁護、虐待・暴力防止など）	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	17
10 地域産業・雇用に関する分野（産業振興、観光推進、雇用促進など）	9 100.0	2 22.2	3 33.3	5 55.6	6 66.7	1 11.1	4 44.4	1 11.1	8
11 上記以外の分野	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0

問4 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等と協働した理由（きっかけ）は何ですか。（主なもの2つまでに○）

- 市民や地域活動団体等と協働した理由は、「これまでも実施してきたため」65.3%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等から要望・提案があったため」26.3%、「市民や地域活動団体等の専門性を活用したかったから」23.2%と続く。

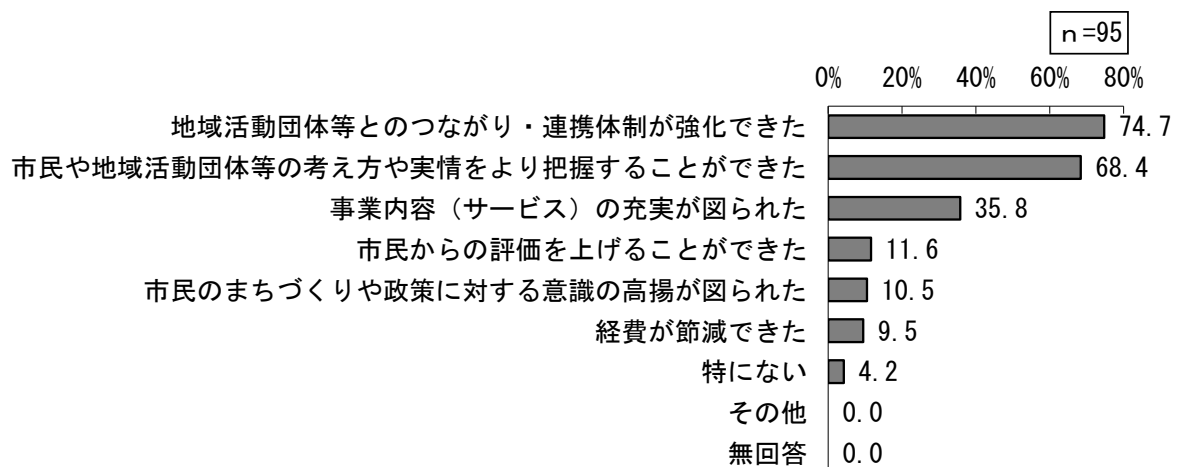
※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問5 これまで担当した業務の中で、協働することにより、どのような成果を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 協働することにより感じた成果は、「地域活動団体等とのつながり・連携体制が強化できた」74.7%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等の考え方や実状をより把握することができた」68.4%、「事業内容（サービス）の充実が図られた」35.8%と続く。

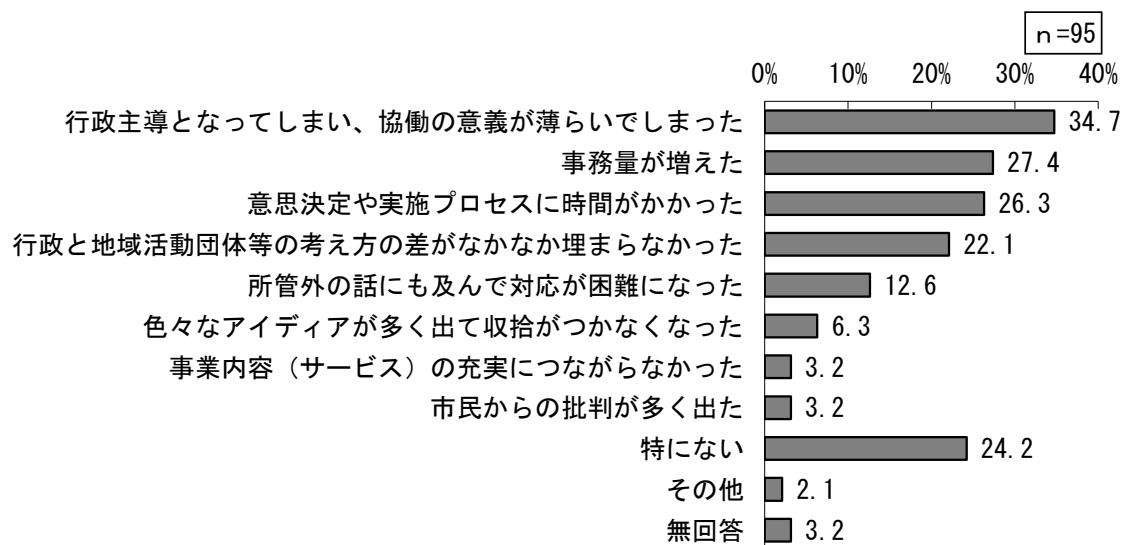
※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問6 これまで担当した業務の中で、協働に対して、どのような課題や不満を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 協働に対して感じている課題や不満は、「行政主導となってしまう、協働の意義が薄らいでしまった」34.7%が最も多く、次いで「事務量が増えた」27.4%、「意思決定や実施プロセスに時間がかかった」26.3%と続く。

※問2で「協働した経験はない」以外を選択した方限定



問7 これまで担当した業務の中で、具体的な協働の事例を1つご紹介ください。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
コミュニティ活動補助事業	豊和地区地域振興協議会	地域住民相互の連携コミュニティの醸成のため、地域自治体と共に、地域コミュニティ事業を企画・実施した。	地域住民が誰でも気軽に参加できる行事計画となるよう留意し、さらに、事業計画（内容）決定過程において、地域住民から意見を集約した上で、行政主導でなく住民主体で決定していただくように努めた。	地域住民代表として、行事等に携わった方の意識啓発・高揚。
防犯対策事業	匝瑳市防犯協会	<ul style="list-style-type: none"> ・市から防犯協会へ補助金の交付 ・防犯啓発活動(チラシ・グッズの配布等)の実施 ・市内各地における防犯パトロールの実施 ・防犯灯の点検、新規設置必要箇所の把握 ・活動服、防犯パトロール車の貸与 ・事務局員は市職員が担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯協会は市内に14の支部があり、基本的に各支部エリア内に住む防犯指導員がエリア内における防犯活動を実施。よって、各地域特性に応じたきめ細かな防犯活動が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に精通した指導員により、各地域特性に応じたパトロールができています。 ・防犯灯については、各地域の防犯指導員によるパトロールを通じて不具合箇所の報告がなされており、市としても速やかな対応ができる。
水田農業推進協議会	農協、区長、農業経営者など	水田農業の推進や補助金の活用	-	各団体や専門家から意見が聞けた
スポーツ少年団各大会	スポーツ少年団各団体	大会の開催にあたり各団の役員の方々と、大会の実施について話し合いの場を設け、意見調整をして大会の実施に役立った。	各団の意見をできるだけ考慮して運営に努めた。	運営がスムーズに行えた。
保健体育団体育成事業	のさかスポーツクラブ	地域住民の親睦と交流、体力向上及び健康増進を推進する	おおむね一の中学校区に拠点を置き、当該区域の住民が主体となって地域スポーツ活動を実施する	200名超の市民等が会員となり、体力健康増進につながっている
飯高檀林コンサート	飯高檀林コンサート実行委員会	コンサートの企画・運営	実行委員会の意思決定を第一に、各方面と調整をした。	実行委員会の方たちは、自分たちのコンサートであるという意識を持って、活動されている。実行委員会のメンバーは飯高地区の地元の方が中心なので、コンサートへの理解・協力を得やすい。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
地域ぐるみごみゼロ運動	市内自治会・各種団体・小中学校等	地域住民の協力のもと、市内の道路等の清掃を行う。	全戸回覧や防災無線等により、多くの市民に参加を呼び掛けた。	毎年多くの市民に参加していただいている。
環境美化推進事業	西小笹の方	水路の清掃	こちらができることと、むこうができることの折り合いをつける	最終的には納得する形で清掃を終了することができた
農業まつり	農業振興会構成団体	実行委員会を組織、主幹産業である農業のPRイベントを開催	各団体からオリジナルな企画を出してもらおうこと	イベントに取り組む中で団体の活性化が図られ、市内農産物のPRができた。
コミュニティ育成事業補助金	地域団体	集会所等の改修等に対する補助金の交付	-	地域団体の活動施設の維持や充実が図られた
地域福祉計画策定事業	地域で活動している住民	地域福祉計画座談会の開催（ワークショップ形式）	参加者主体で座談会を進行した。	住民視点での地域の課題を多く得ることができた。
食生活改善事業	匝瑳市保健推進委員会	健康管理課事業への協力 各地区での健康づくりの推進	保健推進員の養成教室の時に、推進員の活動目的や内容を説明するほか、現役推進員を交えたグループワークを実施し、実際の活動のイメージをつかんでもらうようにした。	グループワークを実施したことで、活動に対する不安は改善されている。
有害鳥獣駆除事業	匝瑳市猟友会	猟友会へ有害鳥獣駆除の協力を求め、農作物被害防止のため、市職員、農協職員、猟友会員で、有害鳥獣の一斉駆除を実施した。	協力者が駆除業務講習へ参加する際、市でバスを用意し、協力者の負担軽減を図った。	年々、協力者が減少していったが、各自で行っていた講習の交通手段の確保がされたことにより、協力希望者が参加しやすくなり、猟友会内で声を掛けてくれたこともあり、人員の確保ができた。
がん対策推進事業	保健推進委員会	がん対策推進事業において、新規のがん検診登録者を増やすために商業施設において勧奨を行った	がん検診ののぼり旗を設置 わかりやすい資料の作成	登録者が増えた
食生活改善推進事業	保健推進委員会	健康管理課事業の食育教室及び健康づくり教室を協働で行った。 また、農業まつりでもブースを設け、試食の配付や健康づくりの啓発及び普及を図った。	普段からの信頼関係の保持	行事には多くの人手が必要となるが、栄養教室や推進員としての研修を受けた人の協力が得られる。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
がん対策推進事業	匝瑳市保健推進員	市民のがん検診受診率向上に向けた取り組み ・商業店での啓蒙、パンフレットの配布、受診申し込み受付 ・農業まつりでの推進員コーナーにて、大腸がん検診の掲示や受診申し込み受付	・商業店内で啓蒙活動がわかるように、のぼり旗を設置し住民にわかりやすくした。 ・実施日前に勉強会を開催し、がん検診や受診の仕方などを説明した。 ・実施後はどうであったかを確認した。	・がん検診申込者が増えた。
がん対策推進事業	匝瑳市保健推進員	がん検診受診勧奨のための、PR活動。市内商業施設において、受診勧奨を行った。	事前に、がんの知識や検診内容についての勉強会を実施した。	がん検診申込者が増えた。
介護度重度化防止事業	はつらつ支援隊（市が個人推薦し、県が育成。名称は、相談の上決定。）	地区の高齢者の集まり等へ出張し、介護予防に関する知識の提供、運動指導を行うもの。団体から市へ依頼があれば、はつらつ支援隊に活動を依頼し実施。	団体を活用してもらえるようPRを行った。依頼が偏らないよう人選に注意をした。	団体に依頼することで職員に時間がとれ、他の業務を行うことができた。ボランティア同士の仲間作りに役立った。
思春期保健事業	市内中学校、小学校、養護教諭部会	思春期における問題の把握と、思春期保健講演会の実施	各学校による思春期教育の進行状況、問題点、理解度、学校側の希望を把握し、講演会内容にいかす	思春期における問題の把握、性感染症と若年妊娠の予防、自殺予防
緊急通学路合同点検	学校教育課、小学校、PTA、県土木事務所、警察	市内、各小学校通学路の危険箇所をリストアップし対策を検討・実施する。	通常の単に道路を作る観点（車両優先）でなく、児童の安全を確保する目的で整備した事。	児童の通学路の安全が図られた。
地域情報通信基盤整備事業	東日本電信電話(株)千葉支店	公設民営方式により整備した光ブロードバンド施設によるインターネット利用者の加入促進を図るため、市内各地で市民に対する説明会等を開催した。	・参加しやすい曜日、時間、場所の設定	・想定を超える加入率であった。
新生匝瑳戦略会議	学識経験者、市内地域団体の代表者、一般公募に応募した市民	既存概念や行政の枠にとらわれない斬新な発想や民間的な感覚による意見を聴取し、「魅力と活力があり、市民が心から住みよいと実感できる	会議の委員だけでは欲しい情報が十分に得られないとき、又は戦略会議から地域へのきっかけづくりを仕掛けたいときには、実際に事業に携わ	市民だけでなく外部の有識者を委員の構成メンバーに入れたことで、専門家の視点から様々なアドバイスを頂くことができた。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
		ふるさと匠瑛市」を創造する施策に反映させるため、新生匠瑛戦略会議を設置し、同会議でとりまとめた「匠瑛市再生への提案書（持続可能な地域社会創造のための地域づくりを目指して）」を市長へ提出した。	っている事業者や関わりの深い地元住民等を交えたフォーラム等を開催し、地域と向き合いながら提案の方向性を検討した。	
のさかいきいき農業塾	のさかいきいき農業塾生	特産品開発や地域活性化について議論し、団体が中心となって実施した。	個々の意見を議論しどうしたら地域がよくなるのかみんなで議論した。	チューリップ祭りの実施、農業者の研修会等による意識改革、農業者の交流
ふれあいパーク整備事業	行政機関、各種農業団体、関係自治会、法人代表者、ボランティアなど	計画づくり（ハードおよびソフト）への参画 運営組織づくり 交流事業の事業化 ボランティア育成	情報共有 高齢者・女性の活用 関連事業の多角化（市民農園、炭焼き窯、散歩コースの設定など）	展示コーナーでの生産者展示のコントロール 女性などの働く場所の確保 新規就農者への農業指導事業 など
チューリップ祭りの開催	農業者団体	農業者団体と共同し、イベントの開催を行い、併せてイベント時に農産物等販売を行い、地域間成果を図った。	団体と市役所が得意とする部分を主たる責任区分として事業計画、運営を実施した。	例年の行事として定着が図られ、物販に向けての農業者団体の活性化が図られた。
匠瑛の浜魅カブラッシュアップ事業策定業務	サーファー、吉崎地区住民、商工関係者	海岸保全、観光振興等を目的としたイベントの実施、施設整備	他職種の人たちを融合させるため、目的を絞った。	1173DAYのイベントを実施。協働者の意見を十分聞いて、吉崎浜に観光トイレを整備した。
新川清掃活動	吉崎揚水組合	毎年11月の第一日曜日に組合員とともに河川清掃を実施	-	河川敷の美観向上
市観光資源の日本ナショナルトラスト調査	飯高地区住民有志	日本ナショナルトラストの指導のもと地域住民有志と飯高寺を中心に評価できる自然・文化遺産（負の遺産でもいい）をフィールドワークした。	特になし	この調査がきっかけで、現在実施しているオープンガーデン（安久山）へと発展した。
総合型地域スポーツクラブ	のさかスポーツクラブ	地域に根ざしたスポーツの振興	-	市民の健康・体カづくりに努め、健康で明るく豊かな市民生活を送れるよう貢献した。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
環境基本計画策定（市民ワークショップの開催）	市民（公募）	匝瑳市環境基本計画を策定するに当たり、市民ワークショップを設置し、市の環境についての現状や課題、望ましい環境像の実現に向けた施策等について議論・検討し計画に反映させる。	特になし	環境基本計画へ市民の意見等が反映された
社会教育団体育成事業	子ども会	各地区子ども会への補助及び講習会・ドッジボール大会等の事業の実施	事業への理解と参加を促すため、内容が分かりやすいチラシ等を作成し、周知に努めた。また、仕事との両立で忙しい役員が多いため、取りまとめ等の事務を見直した。	チラシを用いたことで、事業の内容を広く周知することができ、多くの児童・保護者が参加した。
匝瑳市民体育大会	匝瑳市体育協会	市内の各競技団体と競技運営方法などについて協議のうえ全体の大会運営を行った。	多くの市民が参加できる調整や運営上で事故等を起こさない体制づくりに努めた。	多くの市民が各競技大会に参加できた。大きな事故がなく大会運営が行われた。
成人式	当該年度新成人及び前年度新成人	実行委員会の委員を依頼して式典等を協働して運営した	土日など休日に打ち合わせ会議を開いた	成人式の運営に新成人自身が携わることにより式典でのマナー向上に貢献
匝瑳市非常勤講師配置事業	各学校	市非常勤講師を学校に配置し、きめ細かな学習支援を行う。	学校のニーズに応じ、適切な人的配置に努めた。	子どもたち個々への適切な支援を行うことができ、学習効率の向上が見られた。また、きめ細かな支援をすることができた。
中学生社会体験事業	事業所、学校、公共機関、商工会、保護者	中学生の職場体験事業	それぞれの希望する職業が体験できるように協力事業所を増やす。	中学生も満足し、事業所もやりがい得到了。
里山づくり活動支援事業	アルカディアの会	森林の保全活動を実施する里山活動団体に対して補助金を交付	特になし	環境活動・美化活動の拠点となり、農業に関心を持ってもらう機会となった。
飯高檀林コンサート	飯高檀林コンサート実行委員会	飯高檀林コンサートの出演者を少ない予算の中で、日本最古で、最高の学問所であった、飯高檀林の飯高寺境内の中で演奏してくれる素晴らしい演奏者を選択す	出演者については、飯高檀林コンサート実行委員会の会長を始め、役員の知り合いで、出演してくれそうな方を探してもらったり、インターネットで、出演者	飯高檀林コンサートの役員の紹介などで、少ない予算の中で交渉を行い、出演してもらうことができた。

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
		る協議を行う。また、市内を始め、近隣の市町及び県外の人々に、どのように周知して来てもらうか、どのようなパンフレットを作成し、どこに送るか、また、どのような案内看板を作成し、どこに設置するかなど協議を行う。	を探した。また、昨年と同じ出演者でない方の選考を行う。	
母子寡婦福祉会補助金助成事業	母子寡婦福祉会	補助金の交付、母子寡婦福祉会大会出席、市議会への陳情	その他の事業に追われて、特段、覚えていません	同左
各種まつり	実行委員会	企画立案 ～ 開催	役割分担の明確	なし
婚活事業	NPO法人 S O S A - P r o j e c t	農業を通じた婚活を行い、市内農業者の後継者育成に資する	「農業」「田舎暮らし」に興味のある女性を選定した	特に成果があったという報告はない
特定健康診査（個別健診）	匠瑛医師会	特定健康診査を従来の集団方式から、医療機関でも受けられるように個別方式を導入し、集団・個別方式の併用を図った。	健診結果の精度管理及び、国保連合会へ送るデータ作成の難易度が高い点から、検査会社の統一を図った。	かかりつけ医を持つことにつながった。
1173(いいなみ)DAY事業	共興地区(区長連絡員・地元商店)・観光協会・商工会・サーフショップ等	吉崎海岸の活性化(観光振興)	地元で特色ある商品を生産する商店及びサーファーの取り込み	地元の活性化への協力体制を構築
いきいきげんき倶楽部	市民活動団・地域団体	介護予防についての勉強や運動を実施 また、地域での高齢者の見守りにについても説明	地域住民が主体的に介護予防や認知症の方を見守っていけるようにした	参加者が増えた
介護保険運営事業	介護保険事業者	介護保険サービスの充実に向けた課題抽出と対応策	意見交換や会議開催	現状把握ができて、目的の共有につながった。
成人式	成人式実行委員会	成人式の準備・運営	実行委員の意見を優先したこと	自分たちで成人式を運営するという意識が高まった
国際交流	匠瑛市国際交流協会	市民と近隣地域に居住する外国人との交流事業開催等	事業の実績や協会予算の状況を役員に説明し、現状を踏まえた事業実施をしてもらえるよう工夫した。	前例踏襲ではなく、新規事業の案が出るなど、活発な意見が出るようになった。

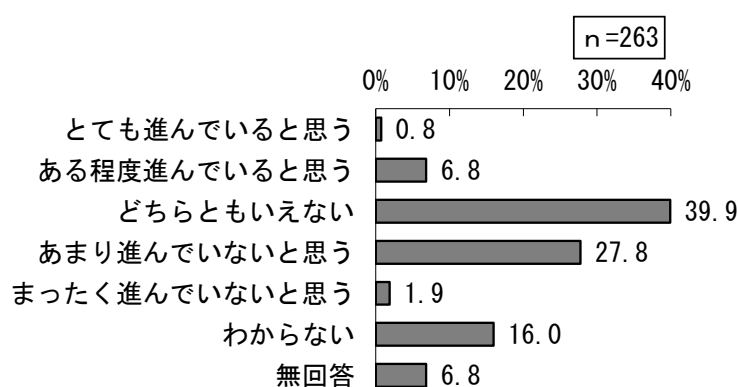
事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
成人式	成人式実行委員会	成人式の準備・運営	実行委員の意見を優先したこと	自分たちで成人式を運営するという意識が高まった
新生匠塾戦略会議	学識経験者、各種団体代表、市民	地域課題の解決に向けた検討	相手方が参加しやすい時間帯での会議開催 検討状況の詳細な公表	地域課題の相互認識 解決策の方向性の相互認識 行政運営に対する市民意識の啓発
交通安全対策事業	交通安全協会、安全運転管理者協議会	交通事故防止に係る各種キャンペーンの実施等	-	-
グランド整備事業	グランドゴルフ協会等	芝張り	芝張りの役割分担	公共施設の管理意識の向上
農地・水・環境保全向上対策事業	自治会・シニアクラブ・婦人会・小学校・PTA・JA等・国・県・市	地域にて協議会を設立し、参加者の共同作業にて農村環境の整備をした。	参加者により、年間の作業スケジュールを立て、各参加団体の役割を立て、共同での活動をした。	行政主導ではなく、地域にて活動をしたことにより、農村環境整備につながった。
高齢者等の見守りに関する協定	コープみらい、セブンイレブン、郵便局等	配送業務中に高齢者等の異変に気付いたときに市（高齢者支援課）に通報することで、迅速かつ適切な対応が図れる。	具体的な対応方法	高齢者見守りネットワーク構築の一助となった。
駅からハイキング	匠塾市観光協会、八日市場本町通り商店街協同組合、コース上の地区住民等	JR東日本主催の「駅からハイキング」を匠塾市にて開催。匠塾市観光協会が中心となって運営を行ったが、ハイキングコース上の地元住民によるおもてなしがなされた。（本町通り商店街での八重垣市場同時開催・飲み物の無料配布、大浦住民による焼きいもサービス、匠塾市倫理法人会による甘酒サービス等）	事業開催について、なるべく早い時期から地元住民に協力を依頼した。	ハイキングコース上の地元住民から、たくさんのおもてなしが提供された。市からの要請ではなく、地元住民からの提案が多かった。
飼料用米等生産拡大支援事業	米農家	生産者の協議会の事務及び出荷の立会、計画作成の援助	事務処理の簡略化等	特になし。微々たるもの。
排水路の改修事業に対する補助金	地元工区長	地元が実施する排水路の改修等に対して補助金を交付する。	制度の周知を徹底した。	予算額以上の希望があった。
八重垣市場	本町通り商店街	イベントへ協力し集客アップを図った	子供連れが楽しめるイベントを企画した実施した	-

事業名	協働相手	協働内容	工夫	成果
そうさチューリップ祭り	そうさチューリップ祭り実行委員会	イベント運営の支援、参加団体との連絡調整、会場設営・撤去作業 チューリップ球根の植え付け作業。	イベントポスターの作成、各所に配布する等の広報活動	市民との交流が深まり、市職員の地域活動への貢献について評価する方が増えたこと
献血推進対策事業	千葉県匝瑳市赤十字奉仕団	献血の実施	-	業務従事職員を最小限に抑えられたこと。 献血実施者へのサービス（記念品の充実等）の向上。
資源ごみ集団回収促進事業	自治会・学校	資源ごみの集団回収の実施団体として登録いただき、各自で地域の資源ごみ回収を実施。回収量によって補助金を出す仕組み。	登録団体が少なかったため、学校や各種団体への呼びかけを実施。	登録団体数が増加した。
チューリップ祭り	チューリップ祭り実行委員会	毎年4月に行われる祭りであるが、趣向を凝らして飽きられない祭りとなるよう実行委員会のメンバーと検討し実施した。協賛団体への協力依頼など会務の全般に携わった。	会員の個性を見出して、得意な事項のリーダーとなってもらい責任感を育成した。	来場者に喜んでもらい、祭りは成功に終わった。
ジュニアリーダー初級講座	初級講座に応募してきた小学校5・6年生	子ども会の匝瑳市ジュニアリーダークラブの中・高校生の指導の下、デイキャンプ等やその他さまざまな体験活動を通じた学習を進めた。	実態に応じ、あまりハードな内容にならないようにメニューを考えた。	参加者全員が協力し合い、思い出に残る学習を進めることができた。
そうさフロンティア学寮	青少年相談員、地域ボランティア	通学合宿事業	相談員・地域ボランティア主体の事業の展開	上記、団体の活動が活発になった
わんぱくクッキング	保健推進委員会	2歳以上の親子を対象とした料理教室。保健推進員は調理補助及び保育を委託している。	保健推進員が行いやすいように事前準備をしている。	参加者との交流
国際交流事業	国際交流協会	イベントの開催、イベントへの参加	なるべく行政主導にならないように、会員に役目を割り振った。	会員たちで企画立案するようになった

II-3. 市の協働に対する考え方について

問8 匝瑳市は、協働が進んでいるまちだと思いますか。（1つに○）

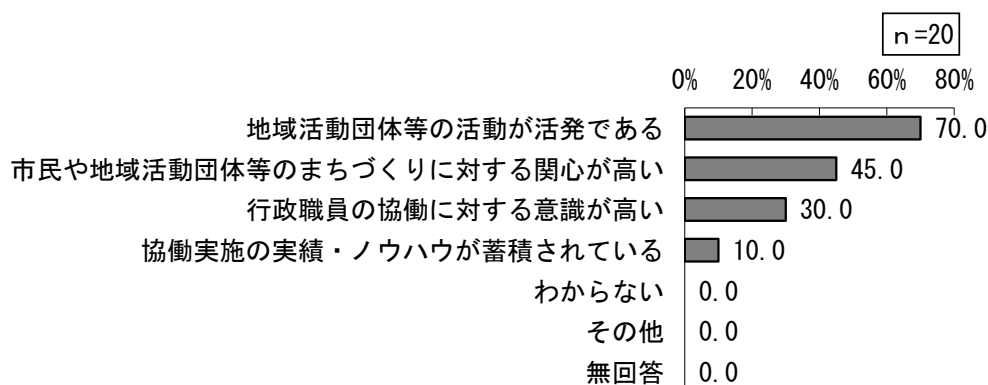
- 匝瑳市は、協働が進んでいるまちだと思うかは、「どちらともいえない」39.9%が最も多く、次いで「あまり進んでいないと思う」27.8%、「わからない」16.0%と続く。



問9 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいると思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいると思うかは、「地域活動団体等の活動が活発である」70.0%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等のまちづくりに対する関心が高い」45.0%、「行政職員の協働に対する意識が高い」30.0%と続く。

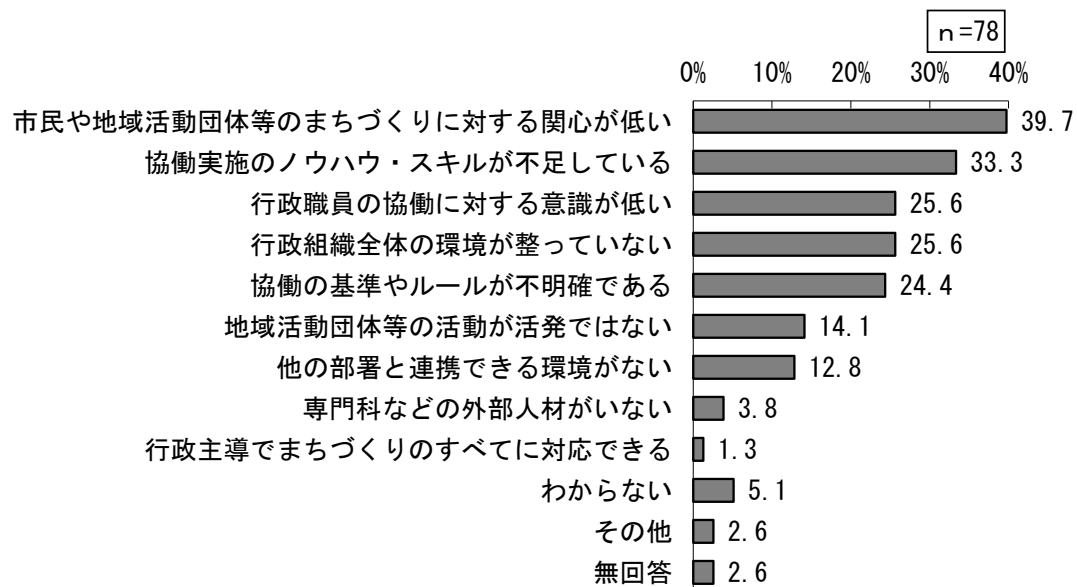
※問8で「1、2（進んでいる）」を選択した方限定



問10 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいないと思いますか。（主なもの2つまでに○）

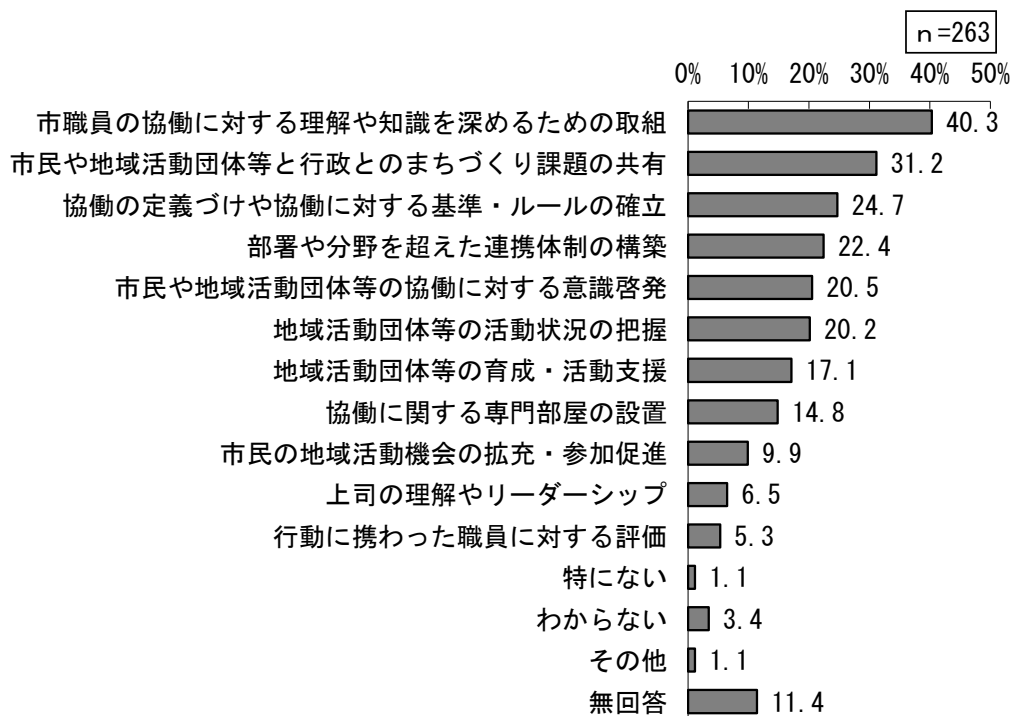
- 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいないと思うかは、「市民や地域団体等のまちづくりに対する関心が低い」39.7%が最も多く、次いで「協働実施のノウハウ・スキルが不足している」33.3%、「行政職員の協働に対する意識が低い」25.6%と続く。

※問8で「4、5（進んでいない）」を選択した方限定



問11 今後、匠瑳市において、より協働を進めていくためには、どのような取組が必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- 今後、匠瑳市がより協働を進めていくために必要だと思う取組みは、「市職員の協働に対する理解や知識を深めるための取組」40.3%が最も多く、次いで「市民や地域活動団体等と行政とのまちづくり課題の共有」31.2%、「協働の定義づけや協働に対する基準・ルールの確立」24.7%と続く。



問12 最後に、市民協働の推進に向けたご意見・ご提案があればご記入ください。

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
<p>行政主導での協働で、住民目線(住民要望)からの協働が少ないと思われる。</p> <p>各地区で自治会・グループ単位で、地区にあった活動を行っていると思われるが、市内でどのような活動が行われているか自分自身がわかっていない。また、地区活動(自主的)には、行政はあまり関知してこなかったと感じる。まずは、各地区の活動把握が必要。</p>
<p>匝瑳市は都市部と比較して、リタイアした世帯、また兼業農家の世帯も多く、ご本人が市民活動をしてみたいという希望があっても、「休日=自分の自由に市民活動ができる時間」という市民は限られてくると思います。</p> <p>また、働く世代は、現代の勤務条件の厳しさにより夜遅くまで平日も勤務されていたり、市外に勤務されている方も多く、市民活動団体を含めた平日夜の会議などを開催しても仕事の為欠席という方が多くみられます。</p> <p>都市部にならって市民協働の推進をしようと思っても、市民の生活サイクルや生活時間などが違うため、匝瑳市民の生活スタイルや生活時間をふまえたうえで、市民活動の推進を行わないと、高齢少子化の中で貴重な、地元のある程度市民活動や地域活動をすることが出来る若い方への集中的な負担となり(役をたくさん兼ねているなど)、さらなる市外への若い世代の流出につながってしまう恐れがあると思います。</p>
<p>協働の対象となる事業や項目について具体的な内容がイメージしにくい。先進事例も取り組みの報告がされているが、協働により何の成果があったのか、協働によるメリットが分かりにくい。</p> <p>学習不足は否めませんので、全職員対象に十分な研修をお願いしたい。</p>
<p>特になし</p>
<p>市民協働を進めるためには、市民の盛り上がりが必要であると思います。</p>
<p>職員に余裕がないとやりたくてもできない。地域の人材を吸い上げることのできる職員の力が必要と考えます。</p>
<p>現市民または交流者(転入者)をターゲットとするかで、末端の事業は展開が異なると思いますが、根底にあるのは、市行政の各施策に対する取り組みのプロセス設定だと思っています。</p> <p>財政力が弱い中で、各種事業の市民満足度を高めるには、計画及び事業運営への市民参画だと思っています。</p>
<p>市民協働とは何か職員知識不足となっており、市民協働が進まない。</p> <p>研修などにより意識改革を進める必要がある。</p>
<p>専門部署を設置し、市職員の協働に対する理解や知識を深めさせるとともに、市民や地域活動団体等の協働に対する意識啓発を行う。</p>
<p>市民との協働の前提として、庁内における情報共有や連携のあり方がより重要であると思います。</p> <p>情報の保護など、行政として慎重にならねばならない部分も多いと思いますが、単独の部署だけでは解決が困難な課題に対応するためには、各部署が有する情報の相互利活用とそのためのルール作りが必要になると思います。</p> <p>また、情報だけでなく、例えば所属部の枠を超えて一つの事業に取り組む(行政同士の協働)な</p>

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
<p>ど、職場・職員同士の現場レベルでの連携が求められます。マンパワー不足の解消や多様なアイデアの醸成には、多種多様な人材の相互刺激が必要です。</p> <p>以上より、庁内の人的・物的・情報資源の積極的な相互利活用に向けたルール作りが重要だと考えます。</p>
<p>市民協働の推進に向けた、職員の意識の高揚を図るとともに、市民や地域活動団体が気軽に相談できる部署や分野の設置並びに連携体制の構築を図る。</p>
<p>昨今のトレンドのように市民協働が謳われているが、自己中心的や個性的な人が増えつつある現代社会において、行政側から一方的に協働を呼びかけてもそれは押し付けになるだけで一部の市民だけがしぶしぶ参加しているにすぎない。現状では行政が先導しているだけの形だけの市民協働がほとんどであり、市民からみて意見が反映されやりがいいがある・楽しい、など自発的に参加したくなるようなものでないと真の協働参画になりえないだろう。</p> <p>市が立ち上げた団体、協議会及び審議会並びにパブリックコメント、アンケート等で有意に機能していると実感したことがない。それは市民が市行政に対して距離を感じているからであり、また期待を持っていないからである。改善するためには市民の意見を実現できる体制を整えなければならない。</p> <p>例年同じことをやればよいと思っている職員の意識改革が求められるし、活力ある団体、グループには積極的に金銭面を含めた支援をしていく姿勢を見せる必要があるだろう。地域振興協議会を例にとると、活動が盛んな地区もあればそうではない地区もあるが内容に関わらず補助金は一緒である。それも年々減額するようなことが行われてきた。そのようなやり方では活動は停滞するばかりである。しぶしぶやっている地区は補助を打ち切り、活動を増やしたい地区には増額すべきなのである。すると地区同士の張り合いとなり次々と新しいアイデアが出て地域の活力が上がるに違いない。だが、このような単純なことですら行政になるとしがらみで、できないのである。現状のままでは市民協働の推進は市民の負担を増やすだけで何も生み出さないであろう。</p> <p>以上、私なりに市民協働という意味を考えて書きましたが、市民協働の定義があいまい過ぎて求められているものとずれているかもしれません。その際はご容赦ください。</p>
<p>特になし</p>
<p>市民協働を掲げるうえで大前提となってくるのは、職員・市民双方の意識改革。双方が仕事を押し付けあう方便になってはいけないと思う。そのためには、双方が匝瑳市の抱える課題を共有し、自分自身の問題として捉え返すことが必要。</p>
<p>近年は、地域のつながりが希薄化していると言われているが、匝瑳市においては比較的郷土意識が高く、各集落内でのつながりや地元行事などが各地で行われている地域であり、知らず知らずのうちに従来から「協働」の形態がとられているのではないかと思われる。そういった点では初めから市民協働を確立させるというのではなく、現にある地域の特性を有効に市民協働指針に反映できればと思う。</p> <p>一方で、市民協働の必要性の低い施策・事業を市民協働により実施しようとする、市民協働の形骸化になったり、よりよい施策・事業につながらない(逆に良いものが悪いものになってしまう場合もある)と思われるので、施策・事業ごとの市民協働の取捨選択が重要になると思う。</p>
<p>特になし。</p>

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案
<p>目的をおたがいに明確にしたうえで、それぞれができる役割分担が決められる。</p>
<p>タテワリの行政組織となっているため、協働のヒントとなる各課の情報共有がなされていない。そのため、専門の部署の設置は必要と思われる。</p> <p>市民や地域活動団体等と、行政とのまちづくり課題の共有できる場が必要。そのためには、よきファシリテーターが必要で、職員が行うのであればそのための教育が必須である。また、外部人材を活用するのも一案。</p> <p>協働を、行政からの押し付けと捉える考えは根強い。行政、市民、各団体が協働について知り、学ぶことが必要。</p> <p>協働に関心のある市民は少なからず存在する。活動を一步後押しする施策が必要。</p>
<p>市民協働を推進にあたっては、互いに意識を持った者が協同して進める必要があり、市としては、専門的は部署を設置し、市民の育成・活動支援が重要である。</p>
<p>協働という意味を本当に理解するには行政も市民や地域活動団体等も時間がかかると思う。</p> <p>市民にとって、協働という言葉が深く浸透していないと感じている。少子高齢化による人口減少問題について市長へ要望が出された経緯もあることから問題意識がないわけでもないので、行政が道筋を示す必要があると思う。</p> <p>また、一部の人のみだけ問題意識を持って行動を起こしても効果が薄れてしまうのでなるべく多くの住民にまちづくりの課題を共有し、一緒に取り組んでもらう必要がある。</p> <p>部署や分野を超えた連携体制の確立及び調整する部署が必要であると感じるため、協働に関する専門部署の設置も必要と感じる。</p>
<p>協働という言葉は浸透していないが、同じ趣旨のことを考えている市民は多いと思う。</p> <p>「高齢者の見守りをする事業を地域でできるようにしたい」「匠瑤市の魅力を伝える観光事業を考えている」等の意見を耳にすることがある。</p> <p>それらの事業が実施に至らないのは、事業を提案する仕組み、事業を実施、運営するための資金的な裏付けがないからなのではないかと思う。</p> <p>また、人手不足も課題である。これまで地域活動団体と行ってきた事業も、団体員の不足や高齢化を理由に活動が停滞している団体も見受けられる。実施する事業ごとに別々の地域活動団体を組織しているので、それぞれに団体員が必要になり、複数の役を掛け持ちしている人もいる。団体の活動内容も踏まえ、組織を統合する、もしくは、横断的な活動をする組織に作り替えることも必要になるのではないかと考える。</p>
<p>行政が主導による事業が主であるため、交付金・補助金の交付期間が過ぎた後にも地域にて共同(協同)活動が継続できる体制の整備が必要。</p>
<p>市民協働の推進役となるNPO法人等の育成が急務であると思われる。</p>
<p>まちづくりに必要なのは、地域社会に対して自覚的な市民の参加であるが、住民の一人である私の目から見ても、若い世代(20代から40代前半)にその意識が希薄である。国よく地方創生などと言っているが、匠瑤市のような田舎町が自覚的に地元の再生産(この地の伝統を生かしながら新しい時代に対応していくこと)を考えないのなら、グローバリズムが拡大している昨今の状況から見てこれから長い時間を掛けて衰退していく道しか残されてはいない。未来の指針を示すのは行政の役割である(それが国や県の受け売りであってはならない)</p>

市民協働の推進に向けたご意見・ご提案

行政、市民が互いに協働を実施するという意識を構築していくことが必要である。

十人十色で、お互いの考えや、行動が違っていても、皆の特性・性格等を生かし、なかには共通の課題や目標もありますので、アンケート内容にもありますが、協働に関する専門部署の設置など、いろいろな点で取り組む必要があります。

また、行政サービスにも限界があり、前は住民からの要望などは職員で対処しておりましたが、現在は職員で対処できないほどの仕事量があり、これからは、出来る事は市民、市民活動団体等が先導にたって、職員をあてにしないまちづくりを進める必要があると思います。

職員があまり手を出しすぎると、一般市民は当たり前と思いつつ次から次へと要求してくる。それこそ協働の意識が薄らいでくる。

本課に配属され5か月が経過した。市職に関する事は初めてだが、人気のある事業の多さに驚いている。これも、今まで地道に市職員・担当者が取り組んできた成果と思われる。

協働を行う団体の活動内容を浸透させていくこと（団体の知名度も含め）が、協働の成果を向上させていくと思います。

Ⅲ. アンケート調査票

.....

問1 あなたの性別・年齢・所属部署をご回答ください。（それぞれ1つに○）

性別	1	男性
	2	女性
年齢	1	10・20歳代
	2	30歳代
	3	40歳代
	4	50歳以上
所属 部署	1	秘書課
	2	企画課
	3	総務課
	4	財政課
	5	税務課
	6	市民課
	7	環境生活課
	8	健康管理課
	9	産業振興課
	10	都市整備課
	11	建設課
	12	福祉課
	13	高齢者支援課
	14	野米総合支所
	15	市民病院
	16	会計課
	17	学校教育課
	18	生涯学習課
	19	監査委員会
	20	農業委員会
	21	市議会

問2 あなたは、これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等との協働による事業実施の経験はありますか。（あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。）

1	市民との懇談会の開催	
2	アンケートの実施	
3	市民意見・提案募集（パブリックコメント）の実施	
4	ゆるやかな意見交換	
5	ワークショップの実施	
6	協議会の設置	
7	審議会等での市民委員の公募	
8	市民会議・まちづくり会議の開催	
9	電子会議・地域SNSの運営	
10	地域活動団体等への補助金の交付	
11	地域活動団体等への事業委託	
12	地域活動団体等との共同事業（企画立案・共催・後援を含む）の実施	
13	地域活動団体等への人的支援	
14	地域活動団体等が参加しての外部評価の実施	
15	上記以外の協働	
16	協働した経験はない	→問8へ

連携相手							
自治会	企業	市民活動 団体	各種地域 団体	学校	個人	その他	その他連携先

※選択肢1～16のそれぞれについて連携相手を選択

問3 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等とどのような分野で協働しましたか。（あてはまるものすべてに○をし、連携相手を選択してください。）

1	福祉に関する分野（児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉など）
2	健康づくりに関する分野（保健活動、医療、介護・疾病予防など）
3	社会教育に関する分野（生涯学習、青少年健全育成など）
4	歴史・文化に関する分野（祭り、文化財保護・活用、芸術振興など）
5	環境保全に関する分野（環境美化、緑化、河川浄化、リサイクルなど）
6	都市基盤整備に関する分野（道路整備、公共交通、情報化推進など）
8	地域交流に関する分野（国際交流、地域間交流、コミュニティ活動など）
7	安全・安心に関する分野（防災、防犯、交通安全、消費者保護など）
8	人権に関する分野（権利擁護、虐待・暴力防止など）
9	地域産業・雇用に関する分野（産業振興、観光推進、雇用促進など）
10	上記以外の分野

連携相手							
自治会	企業	市民活動 団体	各種地域 団体	学校	個人	その他	その他連携先

※選択肢1～10のそれぞれについて連携相手を選択

問4 これまで担当した業務の中で、市民や地域活動団体等と協働した理由（きっかけ）は何ですか。（主なもの2つまでに○）

1	これまでも実施してきたため
2	市単独での事業実施に行き詰まりを感じたため
3	市民のニーズにきめ細かく、あるいは的確に対応できると考えたため
4	市民や地域活動団体等の専門性を活用したかったから
5	市民や地域活動団体等から要望・提案があったため
6	その他

問5 これまで担当した業務の中で、協働することにより、どのような成果を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

1	事業内容（サービス）の充実が図られた	
2	市民や地域活動団体等の考え方や実情をより把握することができた	
3	市民のまちづくりや政策に対する意識の高揚が図られた	
4	地域活動団体等とのつながり・連携体制が強化できた	
5	市民からの評価を上げることができた	
6	経費が節減できた	
7	特にない	
8	その他	

問6 これまで担当した業務の中で、協働に対して、どのような課題や不満を感じましたか。（あてはまるものすべてに○）

1	事業内容（サービス）の充実につながらなかった	
2	行政と地域活動団体等の考え方の差がなかなか埋まらなかった	
3	意思決定や実施プロセスに時間がかかった	
4	市民からの批判が多く出た	
5	色々なアイデアが多く出て收拾がつかなくなった	
6	所管外の話にも及んで対応が困難になった	
7	事務量が増えた	
8	行政主導となってしまい、協働の意義が薄らいってしまった	
9	特にない	
10	その他	

問7 これまで担当した業務の中で、具体的な協働の事例を1つご紹介ください。

事業名	
協働した相手	
協働内容	
工夫した点	
成果があった点	

問8 匝瑳市は、協働が進んでいるまちだと思いますか。（1つに○）

1	とても進んでいると思う	→問9へ
2	ある程度進んでいると思う	
3	どちらともいえない	→問11へ
4	あまり進んでいないと思う	→問10へ
5	まったく進んでいないと思う	
6	わからない	→問11へ

問9 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいると思いますか。（主なもの2つまでに○）

1	市民や地域活動団体等のまちづくりに対する関心が高い	
2	地域活動団体等の活動が活発である	
3	行政職員の協働に対する意識が高い	
4	協働実施の実績・ノウハウが蓄積されている	
5	わからない	
6	その他	

問 10 匝瑳市は、なぜ協働が進んでいないと思いますか。(主なもの2つまでに○)

1	市民や地域活動団体等のまちづくりに対する関心が低い
2	地域活動団体等の活動が活発ではない
3	行政職員の協働に対する意識が低い
4	行政組織全体の環境が整っていない
5	他の部署と連携できる環境がない
6	協働実施のノウハウ・スキルが不足している
7	専門家などの外部人材がいない
8	協働の基準やルールが不明確である
9	行政主導でまちづくりのすべてに対応できる
10	わからない
11	その他

問 11 今後、匝瑳市において、より協働を進めていくためには、どのような取組が必要であると思いますか。(主なもの3つまでに○)

1	市職員の協働に対する理解や知識を深めるための取組
2	協働に携わった職員に対する評価
3	上司の理解やリーダーシップ
4	協働に関する専門部署の設置
5	部署や分野を超えた連携体制の構築
6	協働の定義づけや協働に対する基準・ルールの確立
7	地域活動団体等の活動状況の把握
8	市民や地域活動団体等の協働に対する意識啓発
9	市民や地域活動団体等と行政とのまちづくり課題の共有
10	市民の地域活動機会の拡充・参加促進
11	地域活動団体等の育成・活動支援
12	特にない
13	わからない
14	その他

問 12 最後に、市民協働の推進に向けたご意見・ご提案があればご記入ください。

匝瑳市
市民協働指針策定のための意識調査集計報告書（職員）
【平成 27 年 9 月】

発行日 平成 27 年 9 月

発行 匝瑳市

〒289-2198 千葉県匝瑳市八日市場ハ 793 番地 2

TEL 0479 (73) 0081

FAX 0479 (72) 1114
